

表現活動を取り入れたオノマトペの授業の実践  
—声を出し、身体を使って学ぶ—

杉山 ますよ（早稲田大学）

オノマトペは日本語の特徴的なものであり、日常様々な場面、状況で使われている。

例えば料理の作り方、味についての説明や病院の場面でケガや病気の状態などの説明にも使われている。マンガ・アニメや小説、詩、広告などでもよく見られる。それでオノマトペを取り上げることが日本語学習者にとって有効であると考え、オノマトペの授業を企画した。

目標としてはよく使われているオノマトペを知り、表現形式、発音、リズムを理解できるようになり、学んだオノマトペを日常会話で使えるようになることである。さらにそれぞれのオノマトペと関連する語彙を増やし、使い方をすることである。またマンガ・アニメ、ドラマや小説などで使われるオノマトペが理解できるようになることを目指した。

授業は反転授業の形式をとり、学生は事前に課題をしてくる。授業には積極的に表現活動を取り入れ、声を出し、身体を使ってオノマトペを表現することを行った。学んだオノマトペを使い会話を作り、簡単なロールプレイをする。さらにミニドラマをグループで作成し、演じる。その過程で様々な既習のオノマトペについてディスカッションも行われるので、より知識が定着しやすくなると思われる。また協働でリサーチ活動を行い、その結果をプレゼンテーションする際にも表現活動を取り入れた。例えばジャンル別にマンガを取り上げ、リサーチし意味や使い方を調べ発表する。そして一つか二つのシーンを取り上げ、演じる。学生からはジャンル別にオノマトペをリサーチする活動は使用場面を明確に把握できて、良かったというコメントがあった。学習者はマンガや小説を読み、リサーチしてリストを作成することで書き、グループでまとめることでディスカッションするという総合活動を行う。それからその結果について声を出し、身体を使って表現することで学習が深められるのではないかと思われる。